

森元総理による演説
(第10回AU総会)

2008年1月31日

於:アディスアベバ

クフォーAU議長、コナレAU委員長、御列席の大統領閣下、皆様、

(はじめに)

コナレ委員長に特別にお招き頂き感謝するとともに、また、クフォー大統領にスピーチの機会を頂き、感謝します。国会開会中で日本を離れることができない福田康夫総理に代わり、私が日本政府代表として初めて参加することとなりました。福田総理は、先日のダボス会議において、御臨席のウッド・セネガル大統領やロックグループ U2のボノ、ビル・ゲイツ氏をはじめとする方々と、アフリカについて白熱した議論を行いました。私はこうした議論を受け止めて念願のアディスアベバにやって参りました。この記念すべき第10回AU総会の開会式においてこのようなスピーチの機会を頂けたことは大変光栄なことであり、クフォーAU議長、コナレAU委員長をはじめとする関係者の御厚意に感謝致します。

本年は、我が国の対アフリカ外交にとっても極めて重要な年となります。それは、アフリカ開発を語る上で欠かせない、二つの大きな国際会議を我が国が主催するからです。その第一は、言うまでもなく、5月28日から30日まで、横浜において国連、UNDPと世界銀行と共に開催する第4回アフリカ開発会議(TICADIV)です。

(TICADプロセス)

TICADが産声をあげたのは、今から15年前、1993年です。当時は冷戦終結間もない頃であり、国際社会の「援助疲れ」がその後のアフリカ支援に暗い影を落としていましたが、そのような中、日本はアフリカ支援の継続を訴えました。以来一貫して我が国は、アフリカ開発に深く関わり続けています。偶然か否か、その後のアフリカ諸国の努力によりTICADプロセスの開始を境にサブサハラ・アフリカの一人当たりGDPの低下は底を打ち、以後現在に至るまで順調に上昇を続けています。

現在では2006年11月の中国アフリカ協力フォーラムや、先月ポルトガルのリスボンで開催された第2回EU・アフリカサミットなど、アフリカを巡る様々な協議枠組が立ち上がっていますが、TICADはまさにその先駆者とも言えるでしょう。TICADプロセスが開始してから15年が経ち、アフリカを取り巻く状況は一変しています。前回2003年のTICADⅢの頃と比較しても、当時は誕生間もない機関であったAUは、5年が経過した現在、もはやアフリカの声を国際社会に届ける上で不可欠の存在に成長しました。このAUの発展は、我が国がこれまでのTICADプロセスにおいて声高に主張してきたアフリカの「オーナーシップ」を具現化するものとして、高く評価されるものであると考えます

(TICADIV)

アフリカにおけるこうした明るい動きは、AUの発展だけにとどまりません。現在アフリカの多くの国においては、豊富な天然資源を背景として、高い経済成長を続けています。その一方で、90年代には止むことのなかった紛争の数も減少し、多くの国々で和平の達成と民主的手段による新たなリーダーの登場を我々は目撃しています。TICADIVは、まさにこうした明るい流れの中で開催されることから、「元氣なアフリカを目指して」がその基本的なメッセージとなります。現在ケニアで起こっている混

乱が、AUをはじめ国際社会と手を合わせて平和裡に解決され、長い民主主義の歴史と伝統をもつ国が、早期に「元気」を取り戻すことを願っています。その願いを込めて、私はこの場で、日本国政府が、25万人にも及ぶと言われているケニアの避難民を対象に、食糧等の支援のため世界食糧計画(WFP)及び国連児童基金(UNICEF)を通じて総額410万ドルの拠出を行う予定であることを発表致します。

TICADIVでは、3つの重点事項、すなわち「成長の加速化」、「平和の定着とミレニアム開発目標(MDGs)の達成を含む人間の安全保障の確保」、「環境・気候変動問題への対処」を重点的に取り上げることにしています。TICADは、アフリカ開発に関する開放的なフォーラムですから、アフリカ諸国だけに留まらず、アフリカ開発に関心を有する数多くのドナー諸国や国際機関の参加も予定されています。

TICADIVでは、福田総理と共に私も、いま申し上げたような議題の下、皆さんとアフリカの未来について真摯に語りあいたいと考えています。そして、TICADIVを単なる意見交換の場ではなく、日本のアジアでの支援の成功体験を踏まえ、アフリカ大陸においても具体的成果を出す場とできるよう、私自身、日・AU議連、政府と共に最大限努力したいと思います。TICADIVの成功に向け、御臨席の大統領閣下、首脳閣下と横浜で改めてお会いできることを今から心待ちにしております。

(G8北海道洞爺湖サミット)

我が国が本年開催するもう一つの重要な国際会議、それは7月7日から9日まで開催されるG8北海道洞爺湖サミットです。

我が国がG8議長国としてサミットを開催するのは8年ぶりになりますが、前回2000年の九州・沖縄サミットは、当時議長であった私には忘れ難い思い出です。それは、九州・沖縄サミットが、アフリカにとってある種の転換点となったと自負しているからです。

九州・沖縄サミットの前夜、当時議長であった私の呼びかけにG8首脳が賛同したことから、サミット史上初めてのG8首脳とアフリカ諸国を含む途上国首脳との意見交換が実現し、本日ご臨席のブータン・アルジェリア大統領、オバサンジョ・ナイジェリア大統領、ムベキ・南アフリカ大統領のご出席を得ることができました。以来、アフリカは、G8サミットにおける主要な議題の一つとして取り上げられるようになりました。また、九州・沖縄サミットでは感染症対策を主要議題の一つとしてとりあげ、これを一つのきっかけとして世界エイズ・結核・マalaria対策基金が設立されるなど、国際社会の感染症対策のための取組が強化されることとなりました。

北海道洞爺湖サミットにおいても、「開発・アフリカ」はその主要な議題の一つです。我が国としては、まずは5月のTICADIVの成果とそこで表明されたアフリカの声を、北海道洞爺湖サミットにつなげていく考えです。また、保健・教育であれ貧困削減であれ、2015年がその期限となるミレニアム開発目標(MDGs)の達成は多くのアフリカ諸国にとって大きな課題となっています。日本は、例えば世界基金への協力を含む感染症対策や保健システム強化等に貢献していきたいと考えますし、本年は2015年に向けた中間年にあたることもあり、G8としてどのような取り組みを行っていくべきか、積極的な議論を行いたいと考えています。

(オーナーシップと我が国の支援)

クフォーAU議長、コナレAU委員長、御列席の大統領閣下、皆様、

我が国は一貫して、アフリカ諸国の自助努力の意志、すなわち開発のオーナーシップの重要性を訴え、これに対する支援の必要性を強調してきました。この意味で、先ほども申し上げたとおり、全アフリカを代表するAUの発展は誠に喜ばしいものです。とりわけ、アフリカの平和・安全保障分野で果

たすAUの役割は極めて重要です。

この関連で、福田総理は先般、世界の平和の維持・回復・構築に積極的に協力し人類社会の福利や発展に貢献する国家として「平和協力国家」を目指す考えを表明しました。我が国としては、AUの平和維持能力向上のための努力を支えるため、今回新たに、アフリカに存在するPKO訓練センターへの支援を行うこととしました。これは、従来の我が国の支援からは一歩踏み出すものであり、国連AUダルフール合同ミッション（UNAMID）やAUソマリアミッション（AMISOM）の早期展開、ひいてはAUが提唱するアフリカ平和安全保障アーキテクチャー（APSA）の構築にも資するものとなるはずです。これらの平和構築支援に、昨年アフリカを襲った干ばつや洪水への対応を含む人道危機支援を併せ、我が国がアフリカに対して緊急かつ追加的に行う支援は、約2億6,450万ドルに上ります。我が国としては、「平和協力国家」として、こうした協力を通じて、今後ともアフリカの平和・安全に貢献していきたいと思っております。

（アフリカへの思い）

私のアフリカへの思いは、格別なものがあります。

私は、2001年に日本の総理としてアフリカを公式訪問した際に行った政策スピーチにおいて、「アフリカ問題の解決なくして世界の安定と繁栄はない」と述べました。これは、アフリカの友人を自負する私の確固たる信念です。そしてこれは、我が国のアフリカ政策の基本でもあります。

私は、当時ケニアの難民キャンプを訪れ、アフリカが今もって直面している怒り、悲しみ、正義への無力感を実感しました。しかしながら、同時に、私に語りかけるアフリカの子供達の曇りなき笑顔は、アフリカに希望が確固として存在することを教えてくれました。私たち一人一人は、大海のひとつのしずくのようなものだから、同じ人間として、協調して生きていくことが重要なんだ、ということをおみんなで歌って教えてくれたのは、こうしたアフリカの子供達です。

アフリカでは、我が国の青年海外協力隊の多くの隊員が、今この瞬間も、アフリカの子供達と共に、汗水を流して活動しています。いきいきと喜ぶ子供達の目の輝きが、日本の青年にとって最大の報酬なのです。これを見たいがために、彼らは日本からやって来るのです。子供達はアフリカの未来です。私は、政治に携わる者として、この子供達の明るく希望に満ちた未来のために努力しなければならないと決意していることを、改めて皆様にお伝えします。

今回の第10回AU総会のテーマは、「アフリカにおける産業発展」と伺っています。TICADでは、アジア・アフリカ協力の推進、すなわち貿易・投資に牽引された経済成長を実現したアジアの開発アプローチを提示してまいりました。我が国が、アジアの開発経験を通じて、アフリカにおける経済成長を通じた貧困削減に貢献できるであろうことを、私は確信しています。そして、TICADIVと北海道洞爺湖サミットが、アフリカの子供達の希望と未来に貢献することができれば、私としてこれに勝る喜びはありません。

クフォーAU議長、コナレAU委員長、御列席の大統領閣下、皆様、

先ほど、バンギムン国連事務総長から気候変動のお話がありました。いま、地球はまさに破壊の危機に瀕しています。具体例は枚挙に暇がありません。北極の氷山が崩れはじめています。ヒマラヤの山頂の氷が溶け始め、下へ下へと流れ出ており、ネパールやブータンといったヒマラヤの麓の国々は、氷河湖の決壊による大洪水の可能性に直面しています。一方、太平洋では水位が上昇しており、ツバルやキリバスをはじめとする島嶼国は、あと50cm水位が上がれば国そのものが沈没するおそれがあると聞いています。

こうした事態を受け、我が国も温暖化への取組を強化しています。福田総理大臣は、先日のダボス

会議において、「クールアース推進構想」を提示し、初めて国別総量目標を設定することに言及したほか、100億ドルの途上国支援「クールアースパートナーシップ」を発表しました。

19世紀から20世紀にかけて、地球は、科学技術の発達により大いなる繁栄を享受しましたが、一方で戦いや殺戮の絶えない世紀でもありました。私は、21世紀には人々が地球において戦いや殺戮がなく平和に暮らすことが出来るようになることを実現しなければならないと考えます。また、アフリカには、多くの緑、水、自然が残っており、CO2で汚された空気はありません。アフリカこそが21世紀の地球共生社会のモデルたり得るのです。

今次AU総会とTICADIV、北海道洞爺湖サミットを成功させることが、21世紀がアフリカの世紀となることを確信しております。

御清聴ありがとうございました。

(了)